

Q7

ICT活用のポイントは？

A 授業のねらいに応じて活用し、学習効果を高めることができるようにしましょう。目的はICTの活用ではなく、資質・能力の育成です。

ポイント①：表現での活用

表現の題材で表現の方法として活用することで、表現の幅が広がります。アイデアスケッチなどの場面で、発想が苦手な生徒にとっては、インターネットの資料を使うことによってアイデアの幅が広がったり、ヒントになったりすることがあります。ただし、インターネット等の画像を検索し、そのままアイデアを写し取ったり、安易な発想になってしまったりすることもあります。あくまで発想のヒントとするなど、必要に応じて適宜活用しましょう。

アイデアスケッチが完成した生徒から画像データとしてクラスや学年共通のフォルダに保存し、いつでも互いの作品を鑑賞することができるようにしましょう。

ポイント②：鑑賞での活用

作品の写真をデータで提示することで、拡大したり、写真加工で白黒にしてみたりと、手元でじっくりと鑑賞することができます。また、彫刻などの立体作品は360°どこからでも見ることで、作品の魅力がより伝わる鑑賞をすることができます。トリミング機能を使い、作品を切り取って鑑賞してみると、作品全体を鑑賞していて気付かなかった新たな発見や、構図の学習にもつながります。

佐賀県教育センターでは、ICTの活用に関するコンテンツを発信しています。

ぜひ参考にしてください！

○中学校美術科（R3）


1人1台端末の活用 アイデア集



<https://www.saga-ed.jp/2022/02/22/%ef%bc%91%e4%ba%ba%ef%bc%91%e5%8f%b0%e7%ab%af%e6%9c%ab%e3%81%ae%e6%b4%bb%e7%94%a8-%e3%82%a2%e3%82%a4%e3%83%87%e3%82%a2%e9%9b%86-2/>

端末の活用場面②

端末の撮影機能を使って、アニメーションのための画像を撮影している様子



○簡単に撮影することができました。本題材のように、表現そのものに活用することもあれば、ポートフォリオ用に、ワークシートや作品を撮影することも考えられます。

○一般的なデジタルカメラと比較すると、液晶画面が大きいため、撮影や確認の際にも見やすいという利点があります。端末によって、画質に差があるので、配慮が必要です。

表現の題材での活用例